

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 松都分教会

大正14年3月23日	東耀宣教所設立
昭和14年4月8日	御分霊鎮座奉告祭
昭和23年1月26日	移転改称
昭和23年2月7日	移転改称遷座奉告祭
昭和27年6月27日	神殿増築
昭和35年2月26日	附属建物増築

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。  
つなげよう、信仰の喜びを。

活動  
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



立教187年  
5月号



神苑での伏せ込みひのきしん

婦人会笠岡支部(上原きよ枝支部長)の本年度の活動計画の一環として、4月18・19日におやさと伏せ込みひのきしん団参を持たせて頂きました。

内容は、18日、教祖誕生祭参拝、教祖の226回目のお誕生日をお祝い申し上げ、午後より神苑西支所前での伏せ込み除草ひのきしんを約1時間程させて頂きました。コロナ禍が明け、5年振

**おやさと伏せ込み  
ひのきしん団参実施**

4月18・19日

**婦人会**



神苑での伏せ込みひのきしん

翌19日、婦人会第106回総会が本部中庭で開催されました。この度の式典には、笠岡支部長が「会員の誓い」をされるということもあり緊張感いっぱいに参加させて頂きました。午後の行事として、支部の集いを詰所でもたせて

りとなる「よろこびの大合唱」に国内外から大勢の方々が集い賑やかに響くお祝いの歌声に感慨深い気持ちになりました。夜は詰所で「笠女マルシェ」と銘打って、各ブロックから趣向を凝らした品々を販売してもらいました。この売上は、今年元日に起こった能登半島地震への支援に繋げてもらいました。



おやさまを身近に…。支部の集い



美味しい物いっぱいの笠女マルシェ

もらい、白熊繁一先生(郡山部属)の講話を頂き、年祭活動のこの旬に、教祖



支部の集い。年祭活動の勇みをおみやげに



支部長あいさつ

のお雛形を学ばせていただく機会となりました。(委員 上原千枝子)

親里管内学校新入生歓迎会

開催学担

笠岡学生担当委員会(上原繁次委員長)は、4月28日、親里管内学校新入生歓迎会を開催した。今回は、天理大学、天理高校I部、II部などの学生5人が参加した。

この日は、まず詰所で、『利きうまい棒選手権』を開催した。これは、目隠しをして自分が食べたお菓子が何味かを当てるもので、学生らは苦戦しながらも楽しんだ。

続いて、天理市内のいちご園で、い



あなたが食べたのは何味？

ちご狩りを実施した。大きく紅く実ったいちごを、みな存分に堪能した。昼



マイ ナンバーワンいちご



価値の順番を語り合う

食後は詰所で、ゲームやグループワークの時間を過ごした。学生らは、1日を通して同じ親里で学ぶ者同士の親睦を、より深めた。

(委員長 上原 繁次)



修養科と私

988期 芦品分教会 青木 茂男

私は、一信者の家庭に育ちましたが小学校から鼓笛隊でおちばがえりをしたり、天理高校でお道の勉強をしたりして、親神様から多くのお引寄せがありました。

しかし、私は、今まで教会への参拝やひのきしんは、ほとんどしてませんでした。

今思えば、私の人生での『ふし』は、沢山有りました。

自家用車が全損する様な事故が数回、難病の靭帯骨化症の大手術、癌の疑いからのうつ病発症と数多く有りました。

親神様、教祖は、いんねん寄せて守

護をすると仰せになれましたが、正にその通りだなとこの修養科で思わせ頂きました。

修養科生活をしていくと自分が歩んで来た人生のいろんな事情や身上がこの988期に寄せられた方々に重なり合う事が多く感じられました。

交通事故で行き辛くなられた方、精神的に行き辛い方、難病に悩まされている方々などです。

私も、もしあの時、ご守護を頂けなかったら同じ様な事で悩んでいたかもしれません。

昨年の1月、運転中に無呼吸症候群で意識を失い、一旦停止をせずに、国道2号線に侵入して4トントラックが運転手側から衝突された時も肋骨に少しヒビが入っただけで、他は、大丈夫でした。もしトラックに衝突されなかったら正面のコンクリートの山に衝突して脳がぐちゃぐちゃになって出直していたと思います。

また、同じ難病の方の助言で手術を希望しましたが、予約が一杯で半年先しか出来なかった処、急に予約キャンセルが出て、会社の閑散期に手術が出来て、4時間以上の大手術にも関わらず成功に終わった事等、数々のご守護

を頂きました。

全て『大難は、小難、小難は、無難』と通らせて頂いたんだなあと非常に感謝させて頂きました。

これまでの『ふし』が良い経験となり、同じ様な悩みを持たれた方への気持ちの寄り添いが出来る様に低い心でお道を通っていく努力を致します。

また、これからは、難儀な時は、言うまでもなく、日々の生活の中にも十全のご守護を感じ、報恩感謝の気持ちを持ち、より多くの方にお話して、においかけをして参ります。

## 修養科を終えて

988期 大江橋分教会 村川陽子

年祭活動の1年目の中の、昨年の10月から修養科に行かせていただきました。それまでは詰所の食堂でお皿洗ひのきしんなどをされている修養科生さんの姿を見て、いつかは私も思っていました。おちばにお引き寄せいただき、とても有り難いことに、教養掛の先生方、担任の先生方、同期、笠岡の仲間、と周りの方に恵まれ、あつという間に日々が過ぎていきました。沢山お世話になり、本当に有り難く感じ

ております。

修養科前までは、十分に結構に過ごさせていたでいることに對し、頭では分かっているつもりでも、周りの人や環境のせいにしてしまうことが多い、感謝できない、どこか喜べない日々を送っていました。そんな日が続き、いつしか仕事、信仰、将来のことなどに対する漠然とする不安、葛藤、悩みが大きくなっていきました。そんな私は、神様にもたれきるということなんて到底できないと思っていました。ですが、このままではいけない、私にできることを探し、掴みたい、何か行動を起こさなければ思い、修養科に行かせていただくことになりました。

そして、教理を学び、ひのきしんを皆でさせていた中で、今までこんなにも有り難く元気に過ごさせていたでいたこと、今も変わりなくずっと親神様の大きな御守護と教祖のあたたかさにも包まれていることを実感しました。全ては心次第、受け取り方次第だということが少しずつ分かり、気づけば以前より心から感謝し、喜べる様になり、本当に嬉しく思っています。毎日夕づとめのまなび後におさづけの取り次合いを、また、朝の神殿掃除

の後に同じ組の方におさづけのお取り次ぎをさせて頂いていました。恥ずかしながら、ここ数年間はおさづけを取り次がせていただく機会が少なかったのですが、おさづけを取り次ぐ、取り次いでいただく、添い願いをする、その中で様々なご守護を見せていただき、改めておさづけの尊さを感じる日々でした。

これから、是非とも教祖に使っていただきやすいようぼくとされるよう、感謝とご恩報じの気持ちを忘れずに、陽気に明るく過ごさせて頂いていきたいと思ひます。

## 修養科を終えて

991期 神驛分教会 渡邊響子

私は結婚を機に入信したので、何もわからない状態で3ヶ月間の修養科生活が始まりました。

修養科の学校が始まると、ひのきしんや神殿掃除などの様々な説明を聞きました。

その中で、私は1ヶ月目に長期ひのきしん、特別ひのきしん、神殿掃除の道具運搬係にも当たりと色々なことを経験しました。

最初は全てのことが初めてで、場所もわからないので、どこに行けばいいのか、どんな事をするのかと戸惑うことばかりでしたが、同じクラスの人が声をかけてくれました。

クラスの人達が色々な所で私に話しかけてくれたので、少しずつ私も自分から話ができるようになり、修養科生活にも慣れていきました。

2ヶ月目になり、修養科生活にもだいぶ慣れてきた頃に、私はコロナウイルスに感染しました。

まさか自分が病気になると思ひもしてなかったため、最初は不思議な感じでした。

病気で休んでいた私に、教養の先生が毎日おさづけを取り次いでくれたり、クラスの人が心配して電話をくれたことで、人の優しさがこんなにもありがたいことなんだと強く感じました。

3ヶ月目には私にとって1番大事なおさづけ拝戴がありました。着物を着るのが初めてだったので、最初はなかなか慣れませんでした、拝戴後には少し慣れました。

おさづけの取り次ぎも上手にできるか不安でしたが、拝戴後にすぐ、クラ

スの先生に取り次ぐことができたので、初めてで少し緊張はしましたが、なんとかできました。

修養科修了前に取次実修はありまし

たが、私はその前に2回取り次ぎをしていたので、実修の時には少し慣れた状態で臨むことができました。

何も知らなかった私が、修養科に来

たおかげで、今まで気にしてなかったことに気付けるようになり、相手に対する向き合い方なども変えることができるようになりました。

修養科に来ていなければ、心の向きが変わることはなかったと思います。なので、今は修養科に行けて本当に良かったと思っています。

## 末の弟のまなざし 2

### ▼ニュージャージー布教所の最初

眞雄兄は昭和35年9月 大教会で青年勤め、9月21日に大教会青年を拝命した。37年東商会社へ入社、渡米した。クイーンズへ家を借り、マンハッタン41丁目の(？)店に地下鉄で通う毎日、創業の苦労をしたのだと思う。昭和41年教祖80年祭参拝のため一時帰国した。独身では任された店の運営が難しい、布教への思いもあったのだろうと思う、誰か海外布教に思いを持つ若い人はいないか、当時海外部長だった岸本敏明兄との話が弾んだと思う。結婚は5月10日、先号で述べた。39年に天理大学英米学科卒業の村川文夫さんが仕事を手伝いながら布教するといふ話が出ていたように思う。実現しなかったけれど、その後のアメリカ布教

の道はずいぶん変わったものとなっていただろうと思う。

昭和41年、3代会長夫妻、武内清先生が神実様奉戴で道江姉を連れて渡米、これでニューヨークに笠岡の布教拠点ができた。

兄は帰って来た時、レコード数拾枚、主にクラシックとフィッシャーのステレオアンプを持って帰った。それまで私は父親の部屋にあった電蓄と聞いていたもので、全く耳が洗われるような感じだった。兄はアメリカへ帰ったが、アンプとレコードは置いていったので、私がおのの後ずつと管理して、道友社に勤務していた時もひまがあれば、聴いていた。

勤務で天理市の若木町に住んでいたが、休みを取らせて頂いた。3カ月クイーンズの眞雄兄の布教所暮らしをさせて頂いた。目的からいえば、順子だけ行けばいいのであるが、初代の年祭の偲び品とか、おむつとか、とにかくいろんな持って行く物品があるという事もあって私も行く事となった。年祭偲びの品は、備前の花瓶で、直径は30センチほどある、それを豊明兄と眞雄兄へと2つだった。私は当時道友社で天理時報の編集担当で、特に青年会、いこいの家を記者としてカバーしていた。青年会はこの頃海外研修を盛んに実施して私は東南アジア インド またハワイ大会などの取材で毎年のように海外に出ていた。インド研修取材の帰途には、いこいの家のラオス医療隊の取材でラオス・バンクーンに3・4日滞在した。海外初めての順子にとつても私の随行(？)は心強かったと思う。この時の3カ月は、かさおか誌に「東

遊西録」として掲載した。

この時兄は仕事に毎日出かけて、私達はほったらかしであったが、時々休みを取ってくれてマンハッタン、自由の女神、ジョーンズ・ビーチなど案内してくれた。順子と2人でワシントンへ列車で行ったのもニューヨークのセントラル駅まで送り迎えしてくれた。ヤンキースのホームグラウンド、また、ここが、とても危険な処と車で案内してもくれた。私は2週間くらいで地下鉄の利用の仕方が分かったので、しよっちゅうマンハッタンに出て行つてはグッゲンハイム メトロポリタン美術館を訪れ、またセントラルパークを散策した。当時地下鉄はとても危険だといわれていたけれど、そんな場面にでくわす事はなかった。(この項続く) 兄を悼んでと見出しに書いたが、私の事も書いて申し分け無いと思う。多分、「かさおか」誌に寄稿するのはこの機会が最後でしょう。

# 四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神様には人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいとの思召により

この世と人間をお創造になられたばかりでなく、約束の年限と共に魂のいんねんある教祖を月日のやしろとお定めになり、世界たすけのこの道をおつけ下さいました。更には教祖はお姿は見えませんが、今尚たすけ一条の先頭に立ち、陽気ぐらし実現へとお導き下さっております。事は誠に有難く、勿体ない極みでございます。私共はそのご恩に報いるべく日々は朝夕に御礼申し上げたすけ一条の御用の上に努め、励ませて頂いております。また先日十八日には教祖御誕生祭にて、教祖の二百二十六回目のお誕生日をお祝い申し上げ、翌十九日には婦人会総会にて、教祖百四十年祭に向かって、道の台としての成人を誓い合わせて頂きました。

て四月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には春の陽気の中、今日の日を、楽しみに寄り集まりました。道の子供たちが、相共にお歌を唱和し、日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ、尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の誠、真実の状をご覧下さい。まして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて先月二十四日は笠岡団笠岡むつみ鼓笛隊の合同練習。四月一日には少年会笠岡団のおつとめまなび総会を開催致しました。少年会活動を通してこの道につながる子供達に親の思い伝え、共に成人の歩みを進めさせて頂くことができた事を嬉しく思います。また七日には第五回目の「桜祭り」支援バザーをアフリカ孤児支援に加え、能登半島復興支援を目的に開催し、多くの方に御参加頂きました。更にはこの二十九日には全教一斉ひのきしんデーが開催され、進めさせて頂く所存でございます。

何卒親神様には、「世界いちれつをたすけたい」との親心を我が心として、我が身思案を捨て、たすけ一条に邁進する皆の誠、真実の心をお受取り下さい。まして万たすけの上に自由の御守護を賜り、お望み下さる陽気づくめの世の状に、一日も早くお導き下さいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

## 大教会だより

### ◎本部食堂ひのきしん

自 立教187年4月16日  
至 立教187年4月30日  
海松ヶ岡 藤原 優人

### ◎立教187年直轄教会定期巡教

(丸数字は当該月、他は5月)

福山 上原 繁道	興明 岡崎 真一	皆部 門脇 元教
高屋 上原 志郎	ひろさと 岡崎 真一	明石市 田中 隆之
神邊 田中 隆之	陶山 武内 正美	上下 上原 志郎
島根 田中 隆之	芳井 大教会 長様	府中市 武内 正美
久松 田中 隆之	海松ヶ岡 大教会 長様	東城 中島 誠治
鶴山 大教会 長様	東悠 中島 誠治	服部 上原 繁道
弥高山 門脇 元教	吸江 中島 誠治	島中 大教会 長様
陽備 上原 志郎	照陽 中島 誠治	服部 上原 繁道
摩耶 大教会 長様	輝美 上原 繁道	驛家 岡崎 真一
金浦 ⑧大教会 長様	新山邑 岡崎 真一	葦陽 岡崎 真一
		湯田原 上原 志郎

立教百八十七年 四月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	役割										講話	祭主		扨者	
									区分		地		方		おつとめ		てをどり			坐り勤		前	
上原順子	今川佐智子	佐藤香苗	赤木素志	吉岡壽	岡崎治喜	中村剛	佐藤道孝	岡崎真一	田中ますみ	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	中村義太郎	田林久嗣	中島誠治	上原浩	森本忠善	上原浩	大教会長様		
岡崎豊子	三島照美	谷内美知子	浅野明教	山田敏教	岡崎真一	内海史郎	谷内秀自	上原浩	室悦子	中村初美	武内正美	森本忠善	中村道徳	谷内伸自	上原繁次	横山逸郎	上原志郎	六月講話	横山逸郎	指図方	内海史郎		
上原千枝子	山野なつ	内海安子	岡田誠	岡崎治喜	高木昭祥	三代温生	横山逸郎	佐藤真孝	田中つかさ	吉岡八恵	門脇加津	山野弘実	今川昌彦	門脇元教	杉原善朗	虫明立生	田中隆之	横山逸郎	上原繁道	三代温生	内海史郎		

- 備中前会長様
- 神昭前会長様
- 美之郷前会長様
- 錦備⑥上原繁道
- 神免⑦田中隆之

※お詫びと訂正

本年4月21日発行の『かさおか 第63巻第4号』4ページ掲載の「桜祭り支援バザー」の記事について、「開催部署・執筆者」がそれぞれ「会長室・海外部/海外部長」の誤りでした。読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。



風薫る5月、自然環境に恵まれた我が家の周りは、緑が心地よく映えると言ふよりは、緑が迫ってくるようで怖いとさえ感じる今日この頃です。そんな中で、今年も押し寄せる雑草達との戦いが始まりました。これから先、冬

將軍が来るまで常に草刈り除草に追われるのです。先日、庭にいつの間にか生えている雑草を見つけて「私家(うち)の庭に勝手に生えてくるとは不届きな奴だ!」とつぶやきながら引っこ抜いてやった。でもハタと考えた:

「私家の庭」本当にそうか 人間同士の間ではそうかも知れないが、この世の物は全て神様のものではあった。山も川も田も畑も、それぞれの家が建つ土地も全て神様の体、私の身体もそうである。私も雑草も、神様のお働きを戴いて、今この場に命を与えて頂いているのである。そう言えば、昔 私家の屋根には松が生えていた。それは私が中学生の頃まであって、葺き替え工事の折りに切られてしまったが、当時笠岡内では少々有名になっていたように思う。又 ある教会では、竹が教職舎の畳を持ち上げたと聞く。松も竹も梅(縁起が良いので入れました)も、その場に命を与えられたのである。人間一人々もそうであろう。場所を選んで産まれる事は出来ない。そこに命を与えられたのである。この真実が広まる時、人間同士の争いも少なからず治まるであろう。でも、雑草達との戦いは続く。(は)



「ようぼく一斉活動日（第2回）」が6月1日（土）または2日（日）に、全国の会場で開催されます。

開催日時・会場は、教区・支部ごとに下のリンクで予め調べ、お誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

ようぼく一斉活動日



\*会場一覧

<https://tenrikyo-regional.net/yoboku-katsudobi/>

